



これからの「手に職」

AIの台頭と変化の激しいこれからの社会において、「手に職」を持つことは今後の人生の武器になり得るのか？10代から専門高校に通い「手に職」を身に付け、就職する頃には必要のないスキルになったりしないのか？という漠然とした不安があったので、浦添工業高校の先生に質問しました。不安からくる、失礼な質問にも丁寧に答えてくれ有り難かったです。以下に紹介しますね。

返答「AIに代替されにくい領域の専門技能」は世の中に多くあり、それを身に付けていくので心配はありません。また、今年度の入試から「AIやロボットの作成、制御」を学ぶ「情報科」の募集が始まり、10月頃から新校舎の建設も始まります。国も力を入れており、最新設備が入る予定です（詳細はまだまだ決定）。

質問「AIの進歩は凄いと聞きますが、自分たちが作成したAIに仕事を奪われたり、せっかくの資格が意味なくなったりはしませんか。」

返答「AIを使って仕事をする」と「AIと共存する仕事」の区別がついてないのかも知れませんね。私たちは「AIを使って生活や仕事が楽になるシステム」を作る側ですよ。また、AIにはできない仕事「現実世界で手を動かしていく仕事」を学びます。

返答「新しい資格」は生まれていくとは思いますが、それは今までの資格が時代に合わせアップデートしたものなので、けして無駄にはなりません。

他にもいろいろ聞きました

質問:工業高校に向いているは、どんな人ですか？

回答:「ものづくりが好きな人」

「人の話を柔軟に受け入れることが出来る人、素直な人」

「注意深い人」

質問:向いていない人はどんな人ですか？

回答:工業の機器は大きい音や光がでます。大きな音や光が苦手ぐらいならサポートできますが、恐怖を感じたりパニックを起こすと、事故の原因になるので厳しいです。

質問:何か他にありますか？

回答:事故に繋がるので、規律は厳しいです。

その厳しさに不満を感じる人も向いてないです。

例えば、スイッチが切れており、惰性或冷却のために動いている機械でも、不用意に触れば軽くて皮がえぐれる、最悪、指切断になります。部屋のあちこちで大きな音がなっているので、音で危険を察するのは難しいです。身を守るためにも規律を守る素直さや注意深さが必要です。

企業が運営する高校

日立工業の従業員兼高校生で、給料がでます。

工場のラインで働く人を育成するのではなく、それを管理する人を育成する高校です。

日立製作所
日立工業専修学校



先輩のお話

ホテル料理は、皆で協力して作り上げるものなので、周りをみて動体力や、今なにが必要か予想し考え行動する力が身につきました。この力は、調理師でなくても生かせる力だと思っています。あと体力がめちゃ必要(^_^)。

調理科

「調理師」という国家資格が得られる学科なので、専門教科59点以下は再テスト、専門科目の欠席は補習など厳しい面があります。

また、他の学科に比べても費用がかかりますが、専門高校で資格を得るのと比べれば100万単位で安く済みます。